



地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

継続講座 10月から

プログラミング ゲーム制作レベルに

プログラミング (コンピュータのソフト作成) をもっと学ぼう——。再生協議会学校連携部会 (山本正博部会長) と湘南二宮 IT クラブ (片岡健二理事長) は小学校高学年を対象にした新企画のプログラミング講座を始める。この6月に実施した体験講座 (基礎編) を発展させたもので、10月から6回にわたって開催する。文部科学省の科目組み入れ決定に伴い、同分野への関心が高まっているが、地域組織同士の協力で子供たちが学べる機会を設けることにした。



新講座は、6月の体験講座同様、ビジュアルプログラミング言語 (ビスケット) を使う。6回のうち前半では、ソフト作成の基本をおさらいし、動く模様、簡単ゲームなどを学ぶ。後半は音鳴らし、パズル作成などを経てオリジナル作品を作れるレベルを目指す。講座を通じて子供たちが自分で考え、想像し、伝える力を養うのが狙いで、最終段階では簡単なプログラムを組めるようになるという。

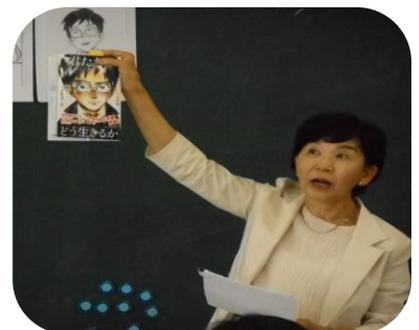
こどもはとても熱心 (6月講座)

開講は10月16日 (火) を予定。月1回ペースで、一色小地域こうりゅうルームで開く。小学3年—6年生を対象に、9月半ばから15名をめどに参加者を募る。機材の設置や準備運営費などは講習費からねん出したいとしており、講習費は全6回で5,000円の予定。このうち、主要学習機材のタブレットを持参する場合は3,500円とする。機材の設置や指導はITクラブ、申込み受付や全体運営は再生協議会が担当する。

原先生の「君たち」に60人

7月14日 (土)、原道子教育委員 (元一色小校長) によるコミュニティ塾「君たちはどう生きるか—私はこう読んだ」が開かれた。原さんは発行部数が250万部 (漫画版) を突破した名作の骨子を紹介しつつ、感想や意見を述べ、参加者と懇談した。小学生から高齢者まで約60人が出席した。

原さんは数種類の資料を準備。作品の背景、読み物としての面白さ、格差社会、子育て環境、子供の成長などの柱建てに合わせて読後感を披露した。後半は会場とのやり取りを中心に進め、それぞれの世代からの質問や意見、感想などが語られた。そのやり取りは子育て環境、地域とのかかわり、いじめなど広範に及んだ。



「私の読み方」を語る原先生

開花ピーク一色小やまゆい

一色小友情の山の群生やまゆりの開花がピークを迎えている。21日（土）からは一般公開が始まり、山野草説明会には約40人が集まった。21日は読売、神奈川新聞が写真入りコラムで取り上げ、来場者が目立って増えた。しかし、猛暑が影響で全体としての入場者は伸び悩んでいる。



友情の山やまゆりの公開は今年で3回目。この間の雑木対策、下草除去、防菌策などもあって大輪の開花が目立つ。斜面の奥の方でも群生の兆候が見られるなど、友情の山部会（牧野士郎部会長）の努力が実を結びつつある。次回公開は28日（土）、29日（日）。開花が早かったせいもあって、この頃には相当程度散っている可能性がある。

古民家活動、部氏が報告

ハウジング&コミュニティ財団の助成事業報告会が7月19日（木）、東京御茶ノ水で行われ、古民家活用部会の部健夫氏が報告した。報告のテーマは「古民家の再生活用により郊外団地を里山クラフトパークに」で、同財団の助成金をもとにした発酵茶の試作、ファブラボワークショップ、



パワーポイントで説明する部氏

雛の吊るし飾り展示などの事業を説明。課題についても語った。住まい活動助成部門では、他の4組織からも報告があったが、古民家部会の活動が最も多岐に及んでいた。

散策路紹介

みかん畑コース

散策路部会（高橋哲也部会長）は決定済み散策路6コースについて道標・案内板の設置、マップ印刷の準備を進めている。今後、随時主要コースを紹介する。

緑が丘中央公園を起点にした約5kmの行程。成長したオリーブ畑からの相模湾、富士見平からの富士山の眺望が素晴らしい。

- ⑤ 緑が丘中央公園 ⇒ 東大果樹園跡 ⇒ オリーブ畑 ⇒ 環境衛生センター「桜美園」 ⇒ 富士見平（愛の地蔵尊） ⇒ 休憩所（天気の良い日は富士山、箱根、丹沢が一望） ⇒ みかんの花咲く道 ⇒ 馬頭観音 ⇒ ⑥ 緑が丘中央公園

